

道 徳 学 習 指 導 案

指導者 大山 陽子

1 日 時 平成 24 年 11 月 1 日 (木) 5 校時

2 学 年 6 年 1 組 26 名 [6 年 1 組教室]

3 主題名 生活を見直して [1-(1)節度ある生活態度]

4 資料名 「けいたい電話を持たせない」(出典「明日をめざして」東京書籍)

5 主題設定の理由

- 健全な社会生活を営むためには、日々よりよい生活を求めて自分を振り返り、望ましい生活習慣を積極的に築き上げていく態度を養うことが大切である。そのためには、規則正しい生活の意義や必要性を理解し、自ら節度を守り自制する心や態度を育むことが重要となる。

文部科学省による「子どもの携帯電話等の利用に関する調査」(平成 21 年 5 月 15 日)によると、6 年生児童の携帯電話普及率は、24.7%となっている。また、同調査は、携帯電話所有の最も多い理由として、「保護者から持つように勧められたから」(46.7%)を示している。調査から 3 年たっているので、現在の普及率はさらに高くなっていると予想される。このことから、携帯電話について考える場を保護者とともに設定することは、児童の今後の生活を考える上で価値があると考えられる。

今日、携帯電話の普及は、児童の生活に多大な影響を及ぼしている。特に、電子メール及びインターネットへの接続は、便利な反面、依存症やメールによる陰湿ないじめ、ネット犯罪など、深刻な問題を引き起こしている。本資料では、児童自身が切実感を持って将来の節度ある使用について考えるようにすることを意図している。

- 本学級の児童の中で、実際に携帯電話を持っている児童はわずかである。これまでの総合的な学習の時間の学習において、インターネットの使い方や E メール・BBS 利用の注意点など、情報モラルについての学習をしてきている。しかし、本当に自分にも起こりうる身近な問題としてとらえている児童は多くない。

日々の生活において、自分たちの生活や学校をよりよくしようと考えたり、6 年生としてやるべきことを優先させて行動しようとしたりする姿が見られる。しかし、分かっているが、楽な方向に流されてしまったり、まだまだ安易な行動を選択してしまったりすることも多い。

- 指導にあたっては、まず自分たちの携帯電話に関するアンケートの結果を導入に活用し、携帯電話が便利だと感じている点について話し合わせる。

展開前段では、4 つの資料を分割提示し、「けいたい電話を持たせない」について感想を発表させる。そして、「けいたい電話を持たせない」理由を考えさせる。その際、参観している保護者の意見も求める。そして、携帯電話が持っている「便利性・安全性」と「危険性」を浮き彫りにする。その後、「けいたい電話を持たせない」という意見に対してどのように考えるかを発表させる。

展開後段では、携帯電話の使い方を考えていく。携帯電話をうまく利用していくためには「便利性・安全性」を求め、「危険性」を排除する使用方法を模索することが大切である。そのためにはどうすればよいのか、一人一人にしっかりと考えさせる。

終末は、教師の説話とする。大切なことは、家庭において保護者と児童が携帯電話についてしっかりと話し合うことである。参観授業でその点に触れることで、家庭での話し合いを促す。また、授業の様子を学級通信で伝えると共に感想や意見を求める等して、事後指導にも活用する。

6 本時のポイント

「携帯電話を持たせない」という考えについて、個々の考えや立場をはっきりさせるために、グループで話し合う場面を設定する。お互いの考えを出し合うことにより、携帯電話を安全に活用する方法を見いだせるようにする。

7 準備物

資料から抜粋した4つの意見のパワーポイント・ワークシート

8 ねらい

- 自分の生活を改め、節度ある生活を心がけようとする態度を養う。

9 指導過程

段階	学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導入	1 携帯電話の便利さについて話し合う。	○アンケート結果から、携帯電話が便利だと思っている人はどんなところが便利だと思っているのでしょうか。 ・どこにいても連絡できる。 ・習い事の迎えに使える。 ・メールが簡単にできる。 ・インターネットですぐ情報が検索できる。 ・GPS機能がついていたら、家の人に居場所が分かって安心。	○あらかじめ、アンケートを採っておき、自分たちの多くが便利だと思っていることに焦点を当てて理由を考えさせる。
展開前段	2 携帯電話を持たせないという考えについて話し合う。	○「携帯電話を持たせない」という題を聞いて、どんな考えからそういっていると思いますか。 ・簡単にインターネットとかにつながるから。 ・ブログなどがもたなくなっていじめが起こる。 ・危険なサイトを利用し、問題に巻き込まれる。 ・メール依存症 ○このような意見に対してあなたはどのように答えますか。 (賛成)・危ないので子どものうちは持たない方がよい。 ・いじめなどが起こらないようにするためにも持たない方がよい。 ・勉強に集中できなくなりそうなので持たない方がよい。 (反対)・持つ側が十分気をつければ持つてもよい。 ・使い方を考えて正しく使えば大丈夫。	○最初は題だけを提示し、今までの経験や知識から考えさせる。 ○自分にもあり得る問題としてとらえられるようにするために、考えの提示方法を工夫する。 ○参観の保護者にも意見を求め、大人の考えにも触れさせる。 ○単に便利か不便かどうかという議論ではなく、みんなが安全に気持ちよく生活するためにはどうするかという視点で話し合うようにする。
展開後段	3 自分自身を振り返って考える。	○携帯電話とうまくつきあうためには、どんなことが大切だとあなたは考えますか。 ・ルールを家族と相談して決めてから使う。 ・友達の意見や情報の発信者の意図に流されないように自分の意見を持つ。	○具体的な方策とともに、自分の生活を見直すきっかけとなる心構えについても考えるようにする。
終末	4 教師の話を聞く。	○携帯電話のルールについて、家の人と6年生には考え方に違いがあるというデータがあります。その違いが、大きな問題につながっているのかもしれません。いい機会なので、家の人と携帯電話について話し合ってみましょう。	○「携帯電話使用について家庭でルールを決めている」と回答している割合が、児童と保護者とでは大きく異なることを告げる。